



荒尾ときめき市組合長

井村長明さん

いむら・としあき 1943年生まれ、上井手下在住。趣味は農業。「お客さんのおいしかったよの一言が励みになります」

ことし4月、農家直売所・荒尾ときめき市（岩本橋公園駐車場内）はオープンから20年目を迎えました。組合員として、設立当初から携わり、13年前から組合長を務めるのが井村長明さんです。

最初は2張のテントから始まったときめき市でしたが、今では店舗を構え、県内外から年間10万人ほどのお客さんが足を運びます。おいしくて安全でお手頃価格と三拍子そろった商品がときめき市の人気の理由です。

「農家で余っている野菜を販売しよう」と活動を始めました。しかし、お店をやる以上はお客さんに喜んでもらうことが一番です。そこで、品ぞろえを充実させようと、それぞれ違う種類の野菜を作るなど、組合員一同工夫して野菜作りを行っています」。

ときめき市では、野菜の販売だけでなく、年に4回行うイベントにも力を入れていきます。旬野菜の特売のほか、サツマイモの収穫体験やちまき作り体験も行っています。

「野菜ができる過程や伝統料理の作り方を特に子どもたちを知ってほしいですね。食べたもので私たちの体は作られます。だからこそ、今の子どもたちが大人になったとき、食の大切さを自分の子に伝えられるようになってほしいんです」。

50年以上、農業を営む井村さんでも、納得いく野菜を作るのは骨が折れると言います。「農業は天候に左右されるので、なかなか思い通りにいきません。毎回、気候や土の状態が変わるので、同じ作物は作れないんです。でも、そこが農業の醍醐味だと思います」。

長年、培った経験でさまざまなトラブルに対処し、いかにしていい野菜を作り、食べる人に喜んでもらうか。そのことに奥深さを感じながら、井村さんは農業を楽しんできました。「魅力ある農業ですが、後継者不足で今後が心配です。水路の清掃など大勢の協力が必須なこと多いので、安心して食べられる野菜作りを若い人が受け継いでくれるなら、こんなうれしいことはありません」。



1・2 荒尾ときめき市。お盆と年始年末以外、毎日営業しています 3 レジ担当のスタッフさん。生産者として、野菜作りなども行っているそうです